

2025 新潟大学（前期）地理 概評

出題分析			
試験時間	90分	配点	100点
		大問数	3題
分量（昨年比較）	〔減少〕 同程度 増加〕	難易度変化（昨年比較）	〔易化〕 同程度 難化〕
<p>【概評】</p> <p>大問3問の構成で、枝問を数えない全小問数は11問で昨年度の14問より3問少ない。枝問を含む論述問題数は8問で、昨年度の7問より1問多い。字数制限のある論述問題は7問で、その総字数は最大630字と、昨年度の620字より10字多い。このうち最も少ない論述字数が100字以上の問題は2問で昨年度と変わらない。全体の難易度は昨年度よりも取り組みやすい問題が増え、易化した。今年度も地理院地図の読み取り問題が出題され、図中に指定された範囲の面積を求める問題や解答用紙の地理院地図中に図示する問題など、作業をとまなう問題も見られた。統計資料の問題は平易であり取りこぼしのないようにしたい。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	世界と日本の資源	問1は東アジアの森林面積の推移を選び、その根拠を述べる問題で、中国が進めている植林事業に言及する。問2の(1)は石炭と原油の輸出国・輸入国の判断、(2)は石油の可採年数が増加傾向にある理由の説明で、いずれも平易である。問3の(1)の農業用水の判断は平易である。(2)はカナートの仕組みを説明する問題で基本的である。(3)はバーチャルウォーターについての問題で、食料輸入が水の輸入につながることから説明できるとよい。	標準

設問別講評			
2	地理の基礎的事項	昨年度も2に登場したテーマである。問1の(1)は平易である。(2)は海溝型地震の多い地域を選ぶ。問2は指定語句からも書きやすい。問3は地理院地図の読図問題で、(1)は尾根線を図示する問題で平易である。(2)は面積を求める問題で、単位に注意する。(3)は地図から天井川を判断する問題で、下流側に凸な等高線からわかる。(4)は扇状地の土地利用の典型的な問題である。なお、図3は、2025年度大学入学共通テスト本試験「旧地理A」第1問の問4の図4と同じ場所で、旧吉野川にX川（坂東谷川）が合流する地域（徳島県鳴門市）である。	標準
3	東アジア	問1はソウル、東京、ペキンのハイサーグラフ、問2は韓国、中国、日本の合計特殊出生率の推移を示したグラフ、問3はこれら3か国の輸出品目を示した表の判断で、いずれも平易である。問4は中国でトウモロコシの生産量が増加した理由を、中国の経済成長との関係で説明する。問5は中国の経済格差の説明で、字数は多いが、指定語句があるので取り組みやすい。	やや易

合格のための学習法

難易度の高い問題は少なく、教科書レベルの知識で解答が可能である。論述問題では、持っている知識を過不足なく述べれば指定された制限字数で解答できるので、日頃から用語集や資料集などを用いて知識を深め、60～100字程度の短文でまとめる練習をしておくといよい。また、統計資料の読み取りなどで、解答の根拠や理由を述べさせる問題が多いので、なぜそれが答えになるのかということを考える習慣をつけておきたい。なお、自然地理の分野で、年度によってはやや専門的な内容の問題が出題されることもあるので、関心を払っておきたい。